

本日の自治体訪問 東かがわ市・さぬき市

両市長から温かい激励のメッセージをいただきました。

一言メッセージは累計6人になりました。

東かがわ市 上村一郎市長あいさつ

今年も平和行進が始まりました。この運動に心から敬意を表します。しかし新型コロナウイルスの影響で規模縮小は誠に残念ではありますが、継続こそ力です。核兵器廃絶を願う人々とともにこの運動が広く普及されており確実に実を結んでいます。東かがわ市も平和を願う人たちと連帯し力を尽くしていきたいと決意を込めてあいさつをいただきました。

また橋本東かがわ市議会議長は新型コロナウイルスで大変な中、平和行進は意義あることと強調し、健康に気づかい愛媛県を目指すようにと労いの挨拶をいただきました。さらに竹田教育長は新型コロナウイルスで平和行進が様変わりしたが「核兵器をなくしたい」の思いは変わらないと強調し、市内の学校での平和教育をさらに充実させたいと決意を述べ、挨拶としました。最後に業務多忙の中、久保東かがわ市職労書記長が駆けつけてくれました。久保さんは市職労としても日頃平和行進や反核平和の火リレー等をおこなっていると紹介。自身の祖父が従軍、祖母が満州からの引き揚げの体験を聞かせてもらったと、戦争の悲惨さを語り継ぐ運動を今後も続けていきたいと決意し、挨拶としました。

さぬき市 大山茂樹市長あいさつ

例年だとさぬき市庁舎の庭の「原爆あおぎり」の前でご挨拶をいただきますが、今年は書面にてメッセージをいただきました。大山市長：被爆75年の節目の年に、世界で唯一の被爆国日本において今こそ一人ひとりが平和の尊さを考えることが求められると指摘し、原水爆禁止運動がその原動力となることを祈念すると、しました。(要旨)

さらに初めて八木市議会議長からもメッセージをいただきました。唯一の被爆国として核兵器の恐ろしさを風化させることなく未来を担う次の世代に伝えていこうと強調しました。(要旨)

さぬき市原水協の水谷剛さんは新型コロナウイルスで行進規模縮小となったが、コロナ対策の強化こそが重要だと指摘し、武器ではコロナは収束できないと強調しました。

東かがわ市庁舎前で市三役と



さぬき市役所の原爆アオギリの下で

